

奄美の風だより

センター & 協議会 News

第21回 やせいの生きもの絵画展 開催中 (2月7日まで)

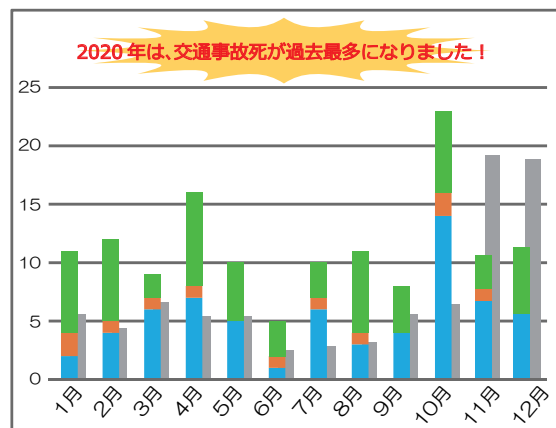
今年のテーマは「わたしの大好きな奄美の風景ややせいの生きもの」。応募総数は、189点(29校、個人3人)。その中から12点の入賞作品が選ばれました。今年はコロナ感染症拡大防止のため、残念ながら賞状授与式は中止となりましたが、絵画展は189作品全てを展示しています。奄美の風景や文化、生きものについて、子どもたちが自分で見つけたことや体験したこと、感動したこと、または大人の人から教えてもらったことや勉強して知ったことの中から、一番好きなものを選んで絵に描いてもらいました。子どもたちの大好きが詰まった作品をぜひご覧ください。



センターからのお知らせ

アマミノクロウサギ死体確認数

(奄美大島及び徳之島における2020年12月31日時点のアマミノクロウサギの死体確認数と死因)



■ 死因不明・その他 ■ イヌ・ネコ
 ■ 交通事故 ■ 2007~19年の平均

※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。

アマミノクロウサギ交通事故 要注意マップ

■ アマミノクロウサギ推定分布域 (2000年~2018年)



奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。

今回は大和村です



宮古崎

大和村は奄美大島の中央部に位置しています。東シナ海に面して11の集落があり、背後には深い山々と奄美群島最高峰の湯湾岳がそびえています。

【モッコク】 大和村の木

モッコク科の常緑高木で南西諸島や東南アジアなどの海岸近くに自生する高木。昭和53年に村民の推薦により村木に指定されました。

大和村で打ちあがったクジラのお話

2018年5月に大和村の津名久集落の浜で驚きの事件が起こりました。巨大なクジラが浜に打ちあがったのです。すぐに村中から人々が見学に集まり、写真を撮ったり触ったり、物珍しい出来事に大人も子どもも大はしゃぎしていました。

打ちあがったクジラはコビレゴンドウという種類で、体長は約5メートルのオス。奄美海洋研究会の興会長が解剖を行いました。詳しい死因はわかりませんでした。コビレゴンドウは、世界中の温帯や熱帯の海に広く分布していますが、沖合を移動するため奄美大島の沿岸で見かけることはほぼないそうです。

▲打ちあがったコビレゴンドウ



▲写真一番手前の骨は、頭骨

このコビレゴンドウの死体は骨格標本を作るため、解剖後に津名久の浜に埋めていました。その骨を昨年12月にショベルカーとスコップを使って掘り返してみたところ、背骨から顎まできれいに骨だけになっていました。2年の月日を感じさせない部位もありましたが、あたかも自分が考古学者になって、昔の巨大な生きものの骨を発掘しているようで、とても楽しい時間でした。来年度には、村内の小中学生を対象に、この巨大な骨で自然観察会を開催したいと考えていますので楽しみにしてください。

また、1月~2月はザトウクジラが奄美大島に子育てや繁殖のために回遊してきます。大和村は東シナ海に面しているため、陸からでも気軽に観察することができます。おすすめの場所は、宮古崎と嶺山公園です。ザトウクジラが潮を吹くところやブリーチングをする姿を見ることができるので、ぜひ観察してみてください。



▲掘り起こされた背骨

(大和村役場企画観光課)

いきもののふしぎ ~ モクスガニのお話 ~

身近なカニの一つであるモクスガニ。古くから日本全国で、食用として利用されています。

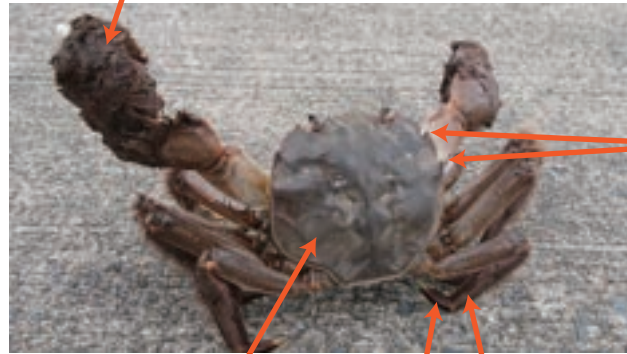


モクスガニとは

淡水性のカニ。サハリン、北海道から九州、南西諸島、朝鮮半島、台湾に分布。奄美群島では全ての島に分布しています。甲長は最大で 75mm 程度。河川の上流域から汽水域、沿岸海域にかけて広く生息しています。海と川を行き来する回遊性のカニであることも特徴の一つです。

形態

はさみの部分に毛が生える。この毛が深くずみえるためこの名前がついた。英名は、Mitten crab (手袋ガニ)。

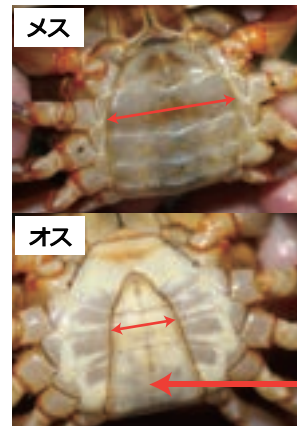


甲羅は丸みのある四角形

歩脚の前節と指節が扁平している

二つの前側縁歯

【腹部】カニは、腹部の幅で雌雄の区別がつけます。



メス

オス

↓腹部を開いた状態



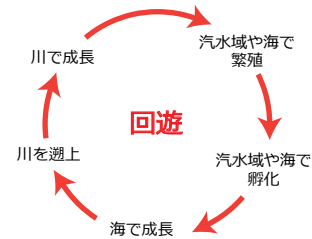
腹肢

折りたたまれている

※写真はサカモトサワガニ

生態

秋から冬にかけて繁殖のために川を下り海を目指します。交尾・産卵は、河口の汽水域や海中で行われます。メスは最高3回卵を産みます。繁殖の終わったオスとメスは、1年以内に死亡します。孵化した子どもはプランクトンとして海で生活し、稚ガニになると遡上します。



人との関わり

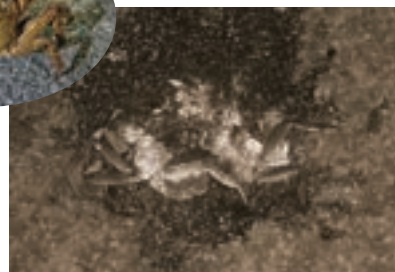
集落周辺でもみることができモクスガニ。どのような人との関わりがあるのでしょうか。

奄美では最近あまり食べられないかもしれませんが、昔から食用として利用されてきました。住用のふやふや汁が有名です。



▲すり潰して作るふやふや汁は、カニのうま味がつまって絶品です。
◀シンプルに塩茹でも美味しいです。

道路をわたるモクスガニ。そのため交通事故にも遭いやすい。カニにも思いやりをもった運転をお願いします。



▲交通事故にあったモクスガニ

今の時期に見られる動植物



ウグイス

喜界島、沖永良部島、与論島では留鳥。奄美大島、徳之島では冬鳥。鳴き声はよく聞けるが藪の中にいるため姿を見ることは少ない。



リュウキュウコノハズク

本来、繁殖期は5月頃から夏あたりまでだが、今年は冬場でも「ピリリリ」という繁殖期でしか聞かない鳴き声が出ていた。



オオズアリ

奄美群島の全ての島に分布。草地から山地に生息。働きアリの中で大きな頭をもつ個体がいるため、この名前がついた。



リュウキュウヤツデ (花)

奄美大島以南に分布。山地に生え、葉は互生し、深く7~9裂する。花は白く、散形に多数の花をつける。



▲卵をかかえるカクレイワガニ

今季の一枚 「カニのお腹」

カニは身近な生きものの一つですが、そのお腹をじっくりと観察したことはありますか？観察するときは、どうしても甲羅に目が行きがちですし、お腹をみるとなると捕まえてはいけなないので、なかなか観察する機会はないかもしれません。前のページのモクスガニの中でも紹介されていますが、腹部は折りたたまれた状態。左の写真を見てもらうとわかりますが、腹肢が卵を支えています。身近な生きものでも体の作りを知らないことが多いですね。捕まえて一度じっくりと観察してみると面白い発見がたくさんありますよ。

参考文献 琉球孤野山の花 (南方新社 写真と文: 片野田逸朗) / 琉球孤・植物図鑑 (南方新社 著: 片野田逸朗) 奄美の野鳥図鑑 (文一総合出版 編: NPO法人奄美野鳥の会) わきあまみ18奄美群島のむし (奄美自然体験活動推進協議会・環境省奄美野生物保護センター)